

2016年インドネシア植林ボランティアツアー報告

今年もインドネシアのバリ島とカリマンタン島の植林ボランティアツアーを実施しました。以下状況についてご報告させていただきます。

❖バリの部 2016年12月9日(金)～12日(月)

2016年インドネシア植林体験ツアー

今年もジオパークに指定されたバツウル山の火山爆発被災地の植生を回復させるための植林体験ボランティアツアーと東カリマンタン州のボルネオオランウータンサバイバルファンデーションのオランウータン保護施設内で昨年の火災被害を受けたエリアの再生植林などのボランティア植林体験ツアーを12月9日から15日までの日程で実施いたしました。今年は日本から18歳から70歳までの9名の参加でしたが、まとまりよく行動していただきました。

12月9日に成田を出発し夕刻にデンパサールに到着し、夕食後、植林活動地のある「キンタマニー」のホテルに11時過ぎに到着しました。

翌10日は朝8時からデンパサールから来てくれた外国語専門大学 STIBA の学生20名と合流し、昨年も参加してくれた学生が何人か今年も参加してくれて感動の再会ができました。

また、今年は国立キンタマニー第一高校の日本語コースの学生100名も参加してくれました。

今年初めて植林する「中バツウル」の住民の皆さんの協力の元数年前の米国のジュリアロバーツ主演の映画撮影の行われたポイント周辺の整備をかけたの植林を行いました。

期間中12月10日には、今年異常気象で7月以来、雨のなかったバリに約半年ぶりの雨が降りました。

作業を始め前には降っていなかった雨が、昼前には激しくなり皆さん全身ずぶぬれになりながら、足場の悪い中、熱心に取り組んで頂き2000本を植林していただきました。

翌11日は、早朝8時より「植林祭イベント」の受付を開始し、順次植林作業を行いました。地元のボランティアグループも参加してAGFNとSTIBA、キンタマニー第一高校のグループをあわせて約500名で4500本の植林を行いました。

樹種はこれまでの経験から成績の良い「アンププ」のみを生分解性プラスチックのBIOPOTで育苗して使用しました。この苗の活用により活着率がグーンと向上し、昨年、植林したのも90%以上が生育していて大変すばらしい結果につながっております。今年のトピックスはインドネシア政府の林業総局長『IB Putra Parthama 氏』が参加されて、熱心に植林をしていただきました。



★インドネシアの林業會局長のコメント要約

バリ訪問の私の目的は、この長い週末に村に一人で行って精神的な疲れの癒すためでした。

しかし、私は「地球を救うために非常に熱心に活動している若者のグループ」が「バリ植林祭」を開催している活動に参加する機会となり、自分の目的には失敗しました。彼らは、環境を改善するために木を植えることを喜びとする努力に取り組んでいたのです私は、キンタマニを訪問した時点でまだ正確な植栽場所を知らませんでした。ペネロカン村について目撃したとき、私は植栽の参加者であると思われる高校生が乗っているトラックに出会い、私は、彼らの後についていきました。そして、ジオパークの一部である黒い溶岩エリアの谷に沿って入って行きました。そこは、唯、硬い黒い溶岩だけが一面に覆われているエリアでまるで火星の表面に似たような状況でした。

私の体験の中で森林地帯にこのような溶岩で覆われた土地をイメージしたことはありませんでした。

私はこんな堅い黒い溶岩だけがおおわれている場所に植林をするなんてとても考えられないことでした。

この土地で植林に取り組む彼らは岩の中に大きな穴を掘り、穴に十分な肥料と肥沃な土壌と生分解するポットに土を充填しアンプの苗木を植えたものが準備されていました。

若い高校生や大学生が喜んでそれをその準備された場所へ運び植えていくのです。

学校や団体など約500人の参加者がありました。

他にも日本からの大人たちの参加がありました。

大変歩行が困難な現場で皆さんが心を一つにして熱心に植林をされておられることに強い感銘を受けました。私は林業環境省の人間としてではなく、みなさんと同一人の民間人として参加していい体験をさせていただきました。公式としてではなく、バリを愛する一人の市民として参加できたこと大変うれしく、誇りに思います。

今回の参加で、私は黒い溶岩の中でも昨年植林されたエリアで樹木が育っている現場を通して、すべて元気に育っていることに感銘を受けました。

私は孤独な一人旅の試みは失敗したものの、私はこんなにも素晴らしい体験ができたので心の疲労を軽減することには失敗しませんでした。

バリ島で、本当に地球の癒しのために責任を持っている多くの若者がいることを知ることが出来たからです。



日本から参加のみなさん



STIBA の大学生と日本からの参加者



2007年の植林地視察



12月10日には STIBA の大学生と国立キンタマニー第一高校の学生 200 人とともに雨の中 2000 本植林



2 日目の参加は約 500 名、大学生たちと集合写真



STIBA 大学の日本語コースの参加者と交流



継続的な貢献に感謝(株)宏和デザイン様



毎月定期的な貢献に感謝 (株)フジダン様



古本収集寄付で貢献:杉並区立西田小学校 6 年 4 組様



2008 年以來より多大な貢献(株)JAC リクルートメント様



継続的な貢献に感謝 ㈱マルエイ様



World Times 様継続的な貢献に感謝



小山平和大使協議会の皆様の継続的な貢献に感謝



継続的な貢献に感謝 波多野蓉子様

❖ 東カリマンタンの部 2016年12月12日～15日

2016年インドネシア植林体験ツアー

バリの植林祭終了後にバリ島デンパサールからボルネオ島のインドネシア東カリマンタン州バリックパパンに向かいました。空港到着後、第二次世界大戦で15000名あまりの方が生命を亡くされたバリックパパン市の郊外の海岸に戦没者慰霊碑に参拝をしていただきました。この慰霊碑の存在を知らなかったのですが、2003年にバリックパパン市の職員の方から「日本人の慰霊碑があるけれど手入れされていない、あなた方日本人なら訪問したら、」という助言をいただき、まだ十分ではありませんが、花木を何本か植栽させていただきました。↓今では人口60万人の街に

以来、訪問やツアーのつど慰霊碑に参拝をさせていただきます。
今回もツアー参加のみなさんと訪問をさせていただきました。2017年のツアーでは慰霊碑の周囲整備の植樹をさせていただく予定です。



慰霊碑の前に咲いていたハイビスカスです。この地で生命を亡くされた先人の皆さんの存在があって、今の日本人として生命を頂いていることに感謝です。残念ながら、民間の方が私財で建立された慰霊碑なので厚生労働省はこの存在も知らなかったし、公的な資金捻上はできないということで大変残念な思いがしています。地元の人達にもたいへん好意的に受け止めて頂いている慰霊碑を守ってゆきたいと願っています。

オランウータンの森づくり



人間に病気をうつされたために自然界にリリースできない
フージャンという雄のオランウータン



日本人戦没者慰霊碑からさらに奥へ車で

1時間、オランウータンの保護施設がある「サンボジャ」につきます。ここの訪問は「オランウータン」を見ることと山火事で被害を受けた施設内の森林を回復するための植林に協力するためです。

↓オランウータンアイランド見学



マレーグマも保護されています



2015年の大規模な山火事で約300haが類焼したために2016年1月から過去3回訪問しもともと生えていた樹種を植林しています。

モリンガとチークの植林を体験

さらに奥地へ移動モリンガとチークの植林を体験



一人一人札を立てて記念植樹



モリンガとチーク混植



パイナップルとチーク混植



今回もバリ島と東カリマンタン島での植林体験をしていただきました。バリではアンププという地場の樹種を溶岩礫の大地に植えました。カリマンタンではオランウータンの森づくり植林をして、別な場所でチークとモリンガの植林を体験していただきました。違う種類の植林を体感していただき無事に15日に帰国いたしました。